

〔カンショ〕

1. 作付の概況

2012年度の全国の作付面積は38,800ha, このうち九州は19,200haで, 前年度並みの作付面積になった。これは全国的に農家の高齢化に伴う労働力不足等により作付けが減少する中で, 宮崎県で焼酎用, 大分県や茨城県で食用や加工用の需要が増えたことによる。全国の10a当たり収量は2,260kgで, 前年産との対比で1%下回った。収穫量は875,900tで, 前年産に比べて10,000t減少した(同1%減)。これは熊本や鹿児島で多雨や低温等の影響を受けて低収になったものの, 関東や四国の主産県では単収が上がり, 収穫量が増えたためである。

2. 作柄の概況

鹿児島県では, 4月中旬から5月上旬にかけて平均気温は平年より高かったが, それ以降は平年より低く推移した。降水量は6月から9月にかけて梅雨前線や台風の影響を受けて平年より多かったが, それ以降は平年並みかやや少なかった。日照時間は9月までは平年よりやや少なく推移したが, 10月以降は平年より多かった。このためマルチ栽培では活着は良好であったものの, 地上部の生育はやや遅れ, 早掘では平年より低収であった。しかし, その後, 生育は回復し, 標準掘ではほぼ平年並の収量になった。一方, 無マルチ栽培では, 多雨や低温の影響を受けて生育が抑制され, 収量は平年よりかなり低かった。以上のことから, 本年の鹿児島県の10a当たり収量は2,320kgで, 前年産を7%下回った。また, 収穫量は320,200tで, 前年に比べて29,800t(9%)下回った。

宮崎県では, 生育期間を通じて平均気温は平年並みかやや高めに推移した。4月および5月の降水量は平年より少なかったが, 苗の活着には問題はなかった。6月から7月にかけて顕著な多雨となり, その後も天候は不安定で, 日照時間は9月中旬まで平年を下回った。このため全体的に地上部の生育やいもの肥大が劣った。原料用カンショの早掘栽培や標準栽培では, 上いも個数は平年並みになったものの, 1個重が少なかったため平年より低収になった。一方, 青果用では, 上いも個数の着生数が少なく, 低収となった。これらの傾向は無マルチ栽培で特に顕著であった。一方, 長期マルチ栽培では, 生育後期の天候の回復により, 1個重は平年よりやや少なかったが, 上いも個数が多く, 平年

並の収量になった。以上のことから、宮崎県の10a当たり収量は2,450kgで、前年産を2%上回った。収穫量は78,400tで、前年に比べて6,400t(9%)増加した。

(九州沖縄農業研究センター畑作研究領域 吉永 優)

2012年度カンショ作付面積と収穫量

区分	作付面積	10a 当たり 収量	収穫量	前年産との比較				
				作付面積		10a当たり 収量	収穫量	
				対差	対比	対比	対差	対比
(ha)	(kg)	(t)	(ha)	(%)	(%)	(t)	(%)	
全国	38,800	2,260	875,900	△ 100	100	99	△ 10,000	99
九州	19,200	-	-	-	-	-	-	-
福岡	156	-	-	-	-	-	-	-
佐賀	106	-	-	-	-	-	-	-
長崎	422	-	-	-	-	-	-	-
熊本	1,170	2,200	25,700	△ 30	98	96	△ 1,900	93
大分	328	-	-	-	-	-	-	-
宮崎	3,200	2,450	78,400	200	107	102	6,400	109
鹿児島	13,800	2,320	320,200	△ 200	99	93	△ 29,800	91
沖縄	252	-	-	-	-	-	-	-

注)平成24年産かんしょの収穫量(農林水産省統計部 平成25年2月5日公表)に基づいて作成